

# 社会的処方 私が地域で実践したこと

---

平成30年11月8日

帝京科学大学医療科学部看護学科

小宮山恵美

# 保健師の視点と行政の仕事

---

## 【保健師の専門性】

地区診断から抽出する地域の課題

それに対しての対応、個別ケアから地区担当地域の課題対応

## 【行政の仕事】

区全体のサービスの公平性

課題に対して迅速性、即効性の対応は難しい

計画や予算との関係性

# 保健師として地域の困った人の課題を解決しようと思ったために数々のことを実験した！

---

## 【入区してから2年間】

新生児・乳児訪問から地域の育児グループ化

保健所から遠いこと、公団住宅が多く新しい住民が多かったこと

ママたちからのニーズがあったこと

## 【公害補償課】

アレルギーやぜんそくのある子を育てている母親の勉強会

## 【保健所】

老人保健法の寝たきり療養者訪問、保健指導

地域の寝たきり療養者を抱える家族の会

# 何かしなければならぬと考へ実践したこと

---

寝たきり療養者を抱える家族の会 8年間実施

保健師の異動とともに新たな展開

介護経験者が地域の高齢者を支える会 19年目

高齢者のレクリエーションを月1回実施、そのあとに家族会

- ➡ボランティアをしている家族は、ライフイベントをうまく乗り切っている様子が見受けられる
- ➡参加者からボランティアへ、ボランティアから参加者へ全員参加
- ➡参加者から、歩ける範囲の地域のサロン活動は、介護予防の視点でも有効
- ➡それを受けて、平成20年に策定した高齢者保健福祉計画に地域包括支援センターのサロン活動を盛り込んだ

# 何かしなければならぬと考へ実践したこと その2

---

【管理職としての視点として】

国・都の動向をとらえての自治体での取り組み

地域住民と地域の専門職が一緒に事業を構築した「産後デイケア」の取り組み

【その課題意識は】

児童虐待やDV対策の担当課長として見えたものがあつたこと

産まれて1か月位、早くからの子育て支援が必要であること

助産院や産科病院などの社会資源が少なかったこと

「すこやか親子21」の計画

# 産後デイケアの設立

---

誰が            ➡ 地域で活動しているグランドマザー世代 50～70代  
                 傾聴講師、育児アドバイザー、民生児童員、保健師  
                 地域の助産師

どこで        ➡ 2DKのマンション(助産院を会場としている)

活動頻度 ➡ 月4～5回 1回2～3人

現在、3年が経ちました。

平成27年度 地域振興課 「地域づくり応援団」を活用

平成28年度 区の補助金 地域のサロン活動も実施

平成29年度 地域サロンを毎月1回実施

# 地域の中で安心して子育てができるように 継続的、包括的なケアを地域の人と模索

---

## 地域包括ケアシステムの構築

自由な発想で実施するも、活動をするための会場の確保

に苦勞、空き家の利活用では、立地が当てはまらない

人材育成も必要であること ➡ニーズがあるのに担えない

まったく、もうからない ➡コミュニティビジネスベースにはのらないため、  
いつも資金が心配である

# 地域で活動を深化してくために 現在模索中！

---

一緒に考える人たちを増やすこと⇒NPO化する

資金が回るよう別事業も抱き合わせる事⇒お互いの知恵を出し合う、知り合いの力を借りること

地域に存在しないサービスは、作ってみること⇒当事者としては、エネルギーが必要、だけど楽しい、役に立つことがある

最後に、行政はついてくる⇒チャンスが来た時に乗ること

まるで「地域包括ケアシステムの構築」

公務員から離れてみて⇒活動に遠慮なく参加できる機会が増える